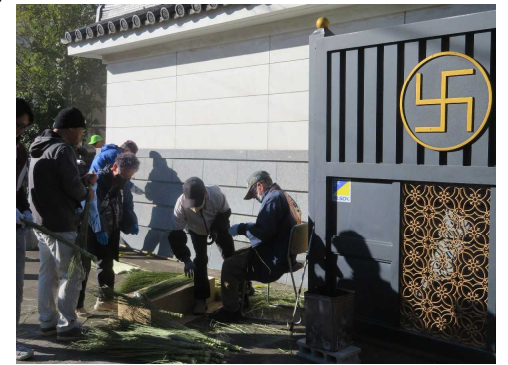




じんがんなわ



西保木間大門ズシという集落の人々が2009年から成人の日に大乘院(西保木間2-14-5)で行っている「じんがんなわ」は、室町時代の文明年間(1469~1487年)頃に始まったと伝えられ550年以上の歴史を持つ貴重な伝統行事で、現在は東京都指定無形民俗文化財に登録されています。前年イチョウの木に奉納されていた古いワラヘビを下ろすところからスタートします。下ろしたワラヘビを燃やします。その灰は今年の新しいワラヘビの蛇の顔の目や鼻になります。地域の人々が協力して新しいワラヘビの胴体の材料となる小さな束をたくさん作ります。蛇の頭の部分と胴体は別々に作ります。ワラの小さな束を差し込みながらねじりあわせて身体を長く作っていきます。



【第431号】
令和8年2月15日

次に完成した目鼻の部分合体して僧侶の祈祷によりワラヘビに魂を入れます。集落を厄から避けるために境内の大きなイチョウの木に頭から這わせるように巻き付けて奉納します。最後にみんなで干した大根の葉を入れた塩抜きのシンプルな干葉粥を食べて一年の無病息災を願います。

この行事は、ワラヘビの力によって、目に見えない病気や、災厄、魔物などを追い払うと考え自分たちの暮らす集落に災いが入らないようにする辻切りの一種です。

辻切りは蛇が主役というわけではありませんが、大乘院の薬師如来の使いである白蛇が火災によって姿を消してから土地に病気がはやり作物が育たず苦しむようになりました。そこで白蛇の代わりにワラヘビを作って災厄を払ったという伝説にのっとっています。

さらに蛇の頭、特に目に工夫を懲らし飾るのかというと、蛇はまばたきをすること無く目を開けたまま周囲を見回るので、もらすことなく周囲を監視するという今で言う監視カメラの役割をしているという意味もあるようです。



この行事は大門ズシの人の手で行われますが一般の見学を受け入れています。見学だけでなくワラヘビの部品となる束作りなどの体験もさせていただきます。午前中の都合の良い時間帯に見学されてははいかがでしょうか？

第4回史跡探訪：綾瀬史跡めぐりと東綾瀬公園での花見

綾瀬地区の史跡めぐりと都立東綾瀬公園でお花見を楽しみませんか。

- ☆ 日 時： 2026年3月29日(日)、午前9時30分集合
 - ☆ 集合場所： 東武線小菅駅改札前
 - ☆ 参加費： 500円 事前申し込みは不要です
 - ☆ 問合せ先： shitanhui4@gmail.com まで
- (注)お花見は各自になります。